

過保護にするのではなく 目配りする。 意識を持った見守る目は 多いほどいい。

これまで紹介してきた防犯教育や自主パトロールはその効果を発揮しています。

防犯教育は、子どもたちに「自分を守る」意識を持たせ、不審者情報が埋もれることなく、保護者・学校・警察に届くようになりました。もちろん、連れ去りなどの被害に遭うことも予防しているでしょう。

地域安全自主パトロールは、子どもたちが「護身術」を使わなくても済むよう活動し、街頭犯罪などの抑止に大きな効果を見せています。

しかし、児童一人ひとりにパトロールがつくのは不可能です。子どもたちの防衛能力に過度な期待はできません。

学校から五〇〇メートル、自宅から三〇〇メートル、警察庁によると、子どもの連れ去り事件の八割がこの範囲内で起きています。友達同士で登下校していても一人になる瞬間が必ずあります。

犯罪者や不審者を寄せ付けない環境・地域ができれば、それが最も安全です。

「子どもを見守る目は多いほどいい」。

防犯技術を高める講座の開催も、治安を見回る自主パトロールも、その奥底にある大きな目的は、地域の意識を高めることです。今回取材したすべての人が、異口同音に「一人ひとりが意識を持って」と話していました。そして「できることをできる範囲でやっているだけ」とも。意識を持って、ちよっとしたことでも、まずは行動してみるのがよさそうです。その行動が人と人とのつながりを構築して「顔の見える」地域をつくります。「顔の見える地域」では、防犯ブザーが決して鳴ることはないでしょう。

そんな地域の明るい未来を予感させてくれる作文を、特集の最後に紹介します。



こんな 倉賀野町がいい

倉賀野小学校 五年 吉川 智英子

私は、こんなふうに、倉賀野町がなかったらいいなという思いがあります。それは「だれにでも明るく元気にあいさつができる」ということです。

私かなぜ、だれにでも明るく元気にあいさつができたらいいなと思ったかというところ、だれかがあいさつをすれば、町全体が明るくなり、楽しくなります。そして私も少しだけけれど、地域の人にあいさつをしてみました。きんちようしたけれど、あいさつをしたら返事をしてくれたので、気持ちよくなりました。なので、今あいさつをするのにどきどきしたり、とまどっている人も、一度、勇気をふりしぼってあいさつをしてみてください。きっと、いつもとちがう気持ちにめぐりあえると思います。

そして、もう一つの、だれにでもやさしく、しんせつにできるといふことを考えたのは、周りにたくさんのお手本になっている人がいるからです。たとえばパトロールです。地域の人は、自分の孫が学校にいるわけではないのに子どもたちのためにパトロールをしてくれています。そういうことができるということば、やさしい気持ちになっているからなのではないでしょうか。そして、そのような地域の方々がいるので、私もこういったことをしてくれている人におんがえをしたいな、という気持ちになります。そういう気持ちの人が人と人との間でつながっていいなと思います。私は、二つのことについて書いてきましたが、このようなことをみんなが心がければ、倉賀野町がもっといい町になると思います。

(学年は平成十八年度当時)